

様式1 平成29年度 山梨県立北杜高等学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

校目標・経営方針を担い、ふるさとを創造していく人材の育成

山梨県立北杜高等学校校長 浅川 英三

本年度の重点目標	1 学ぶ喜び・学ぶ感動・学ぶ楽しさを追究する。(学びの創造)
	2 自分で考え、解決する力をつける。(自己指導能力の醸成)
	3 地域とのつながりをつくる。(学校と家庭・地域との協働)

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価						
本年度の重点目標		年度末評価(1月26日現在)				
番号	評価項目	具体的な方策				
1	学ぶ喜び・学ぶ感動・学ぶ楽しさを体得させるような工夫をする	やまなしスタンダードに留意した授業改善を行い、生徒の家庭学習につながる授業を行う。 目標と指導と評価の一体化をはかり、評価の結果を授業にフィードバックすることにより、生徒の授業理解度70%以上を達成し、生徒の主体的で協働的な学びを推進する。 「シラバス(総合学科)」「学習の手引き(普通科)」を有効活用し、3年間を通して有機的なつながりをもち、各種資格取得等との関連を重視した授業を行う。	生徒・保護者・職員・学校評議員による学校評価、生徒の生活実態調査などのアンケート結果による	○やまなしスタンダードを意識し、各教科とも生徒の基礎力の充実をはかりながら、アクティブラーニングの視点に立った授業やICT活用、実験実習や図書館利用などに積極的に取り組み、生徒の知識定着を高めた。また相互授業参観を行ったり、ICT機器活用の校内研修を行うことで、教科内外を問わず工夫した指導法や生徒の課題共有を行い、授業改善を行った。 ○教員が学ぶ内容やその見通しを提示する、理数コースの生徒にClassを活用した指導を行う、生徒に目標達成までのスケジュールを作らせる等の工夫によって、生徒が目標を持って授業に取り組めるよう教員が努力した。生徒自身も積極的に自信を持って、普段の授業や総合的な学習、作品や農作物作り、模試や検定などに取り組み、結果を出していった。 ○3年共通で小テスト(漢字や英単語など)に取り組み学力・知識の定着を共通で図りながら、3年ではコラムや時事問題のワーク、小論文対策に取り組ませたり、各種検定・資格取得を応援するなど、進路に向けての学力を高める努力を行った。また、各学科で集会を行い、それぞれに適した「学ぶ意味」について考える機会を作った。	A	○生徒の自己評価では「学習への興味・関心・意欲が高まった」という回答が87%と昨年度数値(81%)を上回った。一方、家庭学習時間は「1時間未満」前後が39%と高く、授業改善の努力が十分に家庭学習に結びついているとは言えない現状にある。家庭学習時間定着のために、学年や教科との連携を行う等、対策をとるべきだ。 ○多くの教科で「基礎力の高まり」を実感しており、またまとめる力や伝える力が高まっているという声が聞こえた。生徒の授業理解度は目標を大きく上回り、80%を越える結果となった。今後は学習の定着のための繰り返しを重ねる一方、自ら課題を設定する力の向上や自己管理・計画能力の醸造など、まだ伸ばしていく余地のある部分を高める努力をしていくべきだ。 ○進路を意識した「学ぶ意味」の自覚はある程度定着してきたが、まだ具体的な目標がもてない生徒に対する指導は必要。逆に進路が決定し小テストなどの取り組みが疎かになる生徒もあり、今後に向けた基礎学力向上の意識付けも必要であろう。
	自分で考え、解決する力をつける	学校生活全般において、危機管理や危険認知能力を高めるとともに、危機管理マニュアルの再構築を図る。	生徒・保護者・職員・学校評議員による学校評価、生徒の生活実態調査などのアンケート結果による	○防災避難訓練の充実、外部専門家との連携、地域小中学校との連携や防災に関する発表などを実施でき、防災意識の向上が見られた。また、教育相談の面でも、学年・分掌と保健室・カウンセラーが連携して生徒の実態を把握、早い段階でのサポート開始やカウンセリングにつなげた。 ○教科の授業だけでなく、総合的な学習などを通じて自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考える力、他者に伝える力を伸ばし、進路実現のために必要な力を養っていった。進路指導主体による生徒対象の進路講演会やインナーシップなど、保護者対象の進路講演会などを行い、進路目標の明確化、達成のプロセスの具体化を積極的に行なった。 ○授業の中での生徒の主体的な活動を支援するだけでなく、生徒会行事や修学旅行等を通じて、自主性や協調性、コミュニケーション能力を高める機会を与える、教員側の指示によらず、生徒達自身が自分たちで想像し、考えて計画や運営を行うように促してきた。	B	○交通指導など学校の危機管理指導への満足度は高い数値(生徒96%、保護者88%、教員100%)を示し、一定の評価は得られた。防災教育は引き続きしていく必要があり、カリキュラムマネージメントの視点から、学校全体での計画の見直し等を推進していく事が課題である。また教育相談の面ではSNSによる人間関係のトラブルを指摘する声が複数部署から挙がった。そうしたものの危険性についても授業や講演などを通じて繰り返し生徒に訴えていく必要がある。 ○アンケートの「学校は生徒が進路を考える行動を積極的に設けている」という項目は生徒が95%、保護者が83%と高い数値を示し、学校の指導は生徒・保護者ともに一定の理解は得ているといえる。今後は小論文指導の早期の取り組みや活用方法の検討、情報機器を活用した進路・就職情報を取得させる能力を高める等、更なる取り組みをしていくべきだ。 ○生徒会本部役員の主体性があがり、また、学校行事や部活動で熱心に取り組み、大きな成果を出す者も増えた。生徒の自己評価で「活動や行事に積極的に取り組んだ」と答える生徒は94%と昨年同様高い割合を示した。次年度に向けては、HR長や部長、委員会の委員長などの自主的な活動を促す取り組みを考えている。
	学校と家庭・地域との協働を考える	HP等で生徒や学校の取り組みを発信し、地域の人々の積極的な参加を促す。 地域との関連を積極的に持ち、地域を愛し、地域社会に貢献する取り組みを展開する。 地元の行政機関や事業者と協働した事業を展開し、地域を担う人材の育成を図る。	生徒・保護者・職員・学校評議員による学校評価、生徒の生活実態調査などのアンケート結果による	○ブログやHP、通知等を通して学校行事や授業公開、フェスタの告知やその様子の配信がなされ、学校の様子を公開することができた。各学年とも保護者等への連絡を密にするよう教員に心がけさせた。 ○授業での実習やインナーシップを通して、生徒が積極的に地域に出て行く機会を作った。また北嶺祭やフェスタ社のきらめきでは、学校に地域の人たちを迎え、生徒や教員がそれぞれの役割分担のもとおもてなしをして、来場者に楽しんでもらった。 ○総合的な学習における北杜市役所と連携した講演会、家庭福祉における実習や体験活動、農業における北杜市役所での農業参入企業見学やフランチャイズメントの作品配布、日野春駅の飾花、研究・教養が主体となった地域の図書館と連携してのビブリオバトルやブックトークなど、北杜市役所を始めとした行政機関や事業者と協働した取り組みを数多く実施できた。	B	○生徒・保護者ともに通知などがきちんと学校からなされていると評価していた。(いずれも90%以上)また学校周辺の環境整備や体育行事等で多くの保護者のご協力を頂いた。今後はブログ等の情報発信が一部に偏らず広く発信していく努力をしていくべきだ。 ○フェスタ社のきらめきでは、来場者数と農場生産物の販売量が大幅に伸びる等、地域に理解が深まっている。 ○昨年度の北杜市との包括的協定に基づき、市や市内企業の協力を得てキャリア教育を推進して、地域を担う人材を育てることができた。

学校関係者評価		
実施日(平成30年2月6日)		意見・要望等
評価	評価	意見・要望等
4	○目標に対しての評価を見る限り、成果が上がっていることは顕著である。ただ、総合学科・普通科理数コースと、入学した生徒の目的や設置目的から考えると、具体的な方策等分けることも必要かと思う。 ○家庭学習の定着は永遠のテーマ。結局先生方が授業を大切にし、生徒が欠席せずに楽しく学校に通えるような取り組みが一番大切。北杜高校ではそれができていると思う。 ○その日の授業で学んだことを確実に理解していくことの積み重ねによって基礎力が身につくはず。主体的に課題等を設定できない生徒を導いて欲しい。 ○学校は本年度の目標に向かって計画的に熱心に生徒に働きかけていると思う。生徒は自分の目標を定め目的意識を持って学習に取り組むことが大切であると思う。 ○目標を持たない生徒、何をして良いか分からない生徒に対しての指導には工夫が必要だと思う。 ○良き友・良き師に会うのも学びであり、一生の思い出。	
3	○遅刻者数の激減に見られるように生徒が自ら考え方行動する力が身につくつあるのではないか。学校全体の職員の皆様の努力の成果だと思う。 ○実践的防災教育について、防災活動を小中学校と連携することは大変良い。災害時には高校生も地元の助けになることが分かった。来年度も引き続きこの取り組みをお願いしたい。 ○生徒の進路希望が多岐に渡り、対応も幅広く大変かと思うが、外から見ている分には、生徒の主体性は育っていると感じている。 ○良い指導者に恵まれた北杜の生徒たちは、課外活動の中で社会の一人として通用する常識や礼儀を身につけています。 ○何事に置いても自分で考え方行動し解決していく力が人生を切り開いていく上で必要である。災害やトラブル等についての知識や情報も生徒にとつては必要不可欠である。実践的防災教育推進事業指定校となり、様々な事業に取り組んだことは、そういった意味でもたいへん有意義であったと思う。 ○北杜市は老人が多いので受動的な交通事故に配慮して欲しい。	
4	○ブログにおいて学校行事等をリアルタイムで発信しているHPがたいへん充実していることがすばらしく、効果的だと思う。継続して実施して欲しい。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に参加することで、生徒たちの社会性も高まると思う。 ○フェスタ社のきらめきでは地域に広く認知された行事に成長したと思う。反省を生かしながらさらに充実したものにしていくべきだ。 ○フェスタ社のきらめきでは地域の活性化に繋がっていると思う。生徒が地域を知り、地域で活躍する機会の中で多くのコミュニケーションが生まれているのではないかと思う。そんな関係性の中から地域を担う人材が育ってくれることを願っている。 ○今のが北杜市の課題は若者の地元への定住率にあると思う。働くための企業等社会的な環境もあるが、将来に渡って地元で活躍しようと意識の高い生徒の育成をお願いしたい。 ○北杜市との連携など校長先生を中心に努力していると思う。 ○食堂を作り生産物を地域の人達に提供し、食育の大切さを感じて欲しい。	